EU Trends

発表日:2019 年6月 14 日(金)

ボリス・ジョンソン首相誕生へ

～ダウニング街 10 番地へようこそ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

◇ 保守党の党首選は初回投票でジョンソン元外相が３分の１以上の票を獲得。決選投票に駒を進めることが確実となった。二番手争いは、ハント外相がややリードしているが、スチュワート国際開発相にも勢いがある。何れにせよ、党員による決選投票でのジョンソン氏の優位は揺るがない。

◇ 強硬離脱派首相が誕生すれば、議会は合意なき離脱の阻止を試みるとみられる。だが、議会の審議時間を何に割くかは政府の専権事項で、議会の合意なき阻止が成功するかは不透明。最終手段として、野党の内閣不信任案に、離党覚悟で保守党の残留派議員が同調する可能性がある。不信任が通れば、解散・総選挙となり、離脱・残留をかけた天下分け目の決選に突入する。

10人の候補者で争われた英保守党党首選の初回投票は、ボリス・ジョンソン元外相が投票総数の３分の１以上の114票を獲得して圧勝、二番手のジェレミー・ハント外相に70票以上の差をつけた（図表１）。17票以下の獲得にとどまったアンドレア・レッドソム元下院院内総務、マーク・ハーパー元下院院内幹事長、エスター・マクベイ元雇用・年金相の３候補が脱落した。18日に行われる２回目の投票では33票以下の候補が脱落する。その後の投票では、投票毎に最下位の候補が脱落し、20日までに決選投票に駒を進める２候補に絞り込む（図表２）。つまり、２候補に残るためには、３候補となった段階で、他の２候補のどちらかの獲得票を上回る必要がある。ここから、初回投票で３分の１以上の票を獲得したジョンソン氏が決選投票に残ることは確実（他の２候補ともに３分の１以上の票を獲得することは不可能なため）。初回投票でジョンソン氏を支持した議員の一部が他候補支持に回れば同氏の決選投票進出を阻止することも計算上は可能だが、圧倒的な支持を集めるジョンソン氏を裏切れば、次期政権での閣僚ポストが遠退くだけだ。よほど大きな失言やスキャンダルの発覚でもない限り、ジョンソン氏の決選投票進出を阻止することは出来ない。

（図表１）英保守党党首選・初回投票の結果

候補者	主な役職	離脱の立場	初回投票	備考
ボリス・ジョンソン	元外相	離脱投票→強硬離脱	114	最終２候補に当確（105票以上）
ジェレミー・ハント	外相	残留投票→穏健離脱	43	第二回当確（33票以下が脱落）
マイケル・ゴーブ	環境・食糧・農村相	離脱投票→穏健離脱	37	第二回当確（33票以下が脱落）
ドミニク・ラーブ	元ＥＵ離脱担当相	離脱投票→強硬離脱	27	第二回通過には＋7票
サジド・ジャビド	内相	残留投票→穏健離脱	23	第二回通過には＋11票
マット・ハンコック	保険相	残留投票→穏健離脱	20	第二回通過には＋14票
ローリー・スチュワート	国際開発相	残留投票→穏健離脱	19	第二回通過には＋15票
アンドレア・レッドソム	元下院院内総務	離脱投票→強硬離脱	11	脱落（17票以下）
マーク・ハーパー	元下院院内幹事長	残留投票→穏健離脱	10	脱落（17票以下）
エスター・マクベイ	元雇用・年金相	離脱投票→強硬離脱	9	脱落（17票以下）
		合計	313	

出所：各種報道より第一生命経済研究所が作成

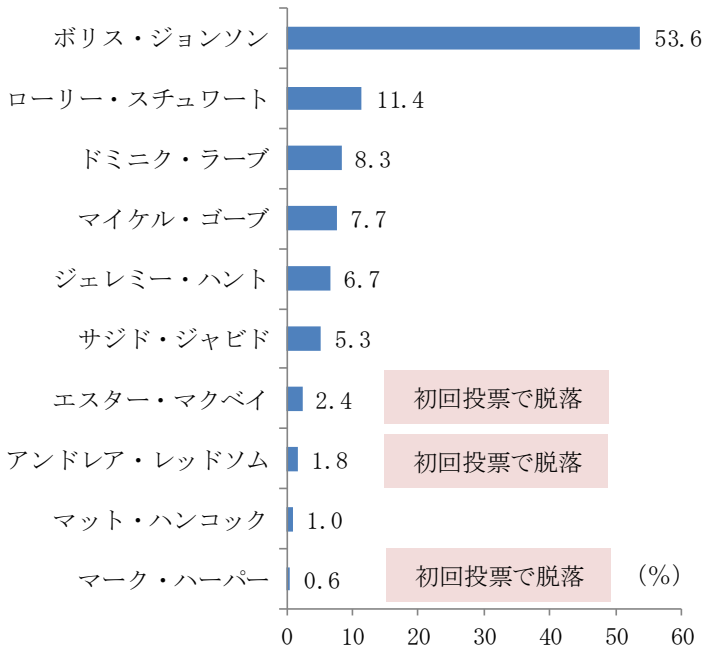
（図表２）英保守党党首選の日程

月	火	水	木	金	土	日
6月10日 立候補締切	11	12	13 初回投票	14	15	16
17	18 二回目投票	19 三回目投票	20 四回目投票	21	22	2
24	25	26	27	28	29	30
7/1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	15
22 党首選出	23	24	25	26	27	28

注：赤字は議員投票、青字は党員による郵送投票
出所：各種報道より第一生命経済研究所が作成

ジョンソン氏に次ぐ二番手争いは混沌としている。過去のコカイン経験を告白したマイケル・ゴーブ環境・食糧・農村相の獲得票が伸び悩み、残留派（アンバー・ラッド雇用・年金相）と離脱派（ペニー・モーダント国防相）双方のキーパーソンの支持を得たハント外相がやや抜け出している。ソーシャル・メディアを駆使した選挙キャンペーンが成功し、ローリー・スチュワート国際開発相に勢いがある。初回候補で脱落した３候補、２回目の投票までに立候補を取り止める候補を支持した議員の投票をどう取り込むかが、二番手争いの鍵を握る。強硬離脱派の票をジョンソン氏に奪われた形のドミニク・ラーブ元ＥＵ離脱担当相は、脱落した強硬離脱派の２候補を支持した20票のうち７票以上を取り込まなければ、３回目の投票に進むことはできない。ラーブ氏が決選投票に残ることは難しく、同氏を支持する強硬離脱派の票の大多数はジョンソン氏に向かうと考えてよい。脱落した穏健離脱派のハーパー候補を支持した10票は、穏健離脱派に分散しよう。支持票が伸び悩んだマット・ハンコック保健相も何れかの段階で脱落か立候補取り止めを決断するとみられ、その票の多くは同氏と立場の近いサジド・ジャビド内相に向かう可能性がある。二番手争いは、①2016年の国民投票でジョンソン氏とともに離脱キャンペーンを率いたが、その後は政権内でメイ首相を支え、強硬離脱路線を封印してきたゴーブ氏、②国民投票では残留に投票したが、その後に離脱支持に転向したハント氏とジャビド氏、③これら３候補よりも穏健な離脱を主張するスチュワート氏に絞り込まれよう。ハント氏がややリードするが、ダークホースとなりそうなのがスチュワート氏。初回投票の直前に行われた保守系ウェブサイトの人気投票では、スチュワート氏がジョンソン氏に次ぐ支持を獲得した（図表３）。閣僚としての実績や実務能力の高さ、ジョンソン氏よりやや穏健な離脱の立場を採るゴーブ、ハント、ジャビド氏に共通する。３候補に支持が分散すれば、決選投票はジョンソン氏とスチュワート氏という展開も考えられる。

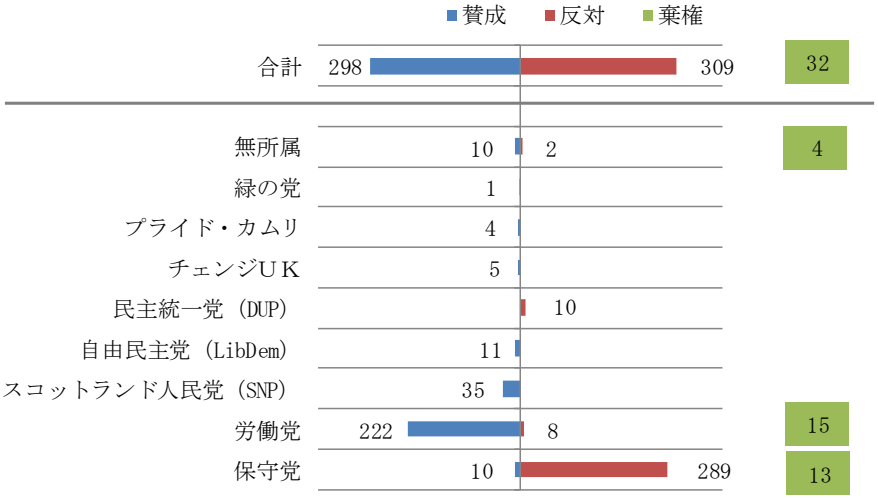
（図表３）英国の保守党党首選の世論調査



出所：Conservative Home資料より第一生命経済研究所が作成

スチュワート氏は若者や穏健離脱派にアピールすることが出来るが、十数万人の党員投票での決選投票となれば、ジョンソン氏の優位は揺るがない。ジョンソン氏の保守党党首就任はほぼ間違いないだろう。労働党を中心とした野党は12日、強硬離脱派の首相が誕生した場合に備え、合意なき離脱を回避する関連法案の審議時間を確保する動議を提出したが、賛成298・反対309で否決された（図表４）。過去の投票から判断して、議会の多数意見は合意なき離脱の回避だが、議会の審議時間を何に割くかの決定権は政府にある。議会が強硬離脱派首相の動きを封じ込めるには、今回否決されたものと類似の動議を可決する必要がある。投票の内訳をみると、保守党の10議員が党の方針に反して賛成票を投じ、これらは残留支持の議員と考えられる。労働党の８議員が逆に反対票を投じており、これらは離脱支持の議員とみられる。投票棄権者も32名に及び、より差し迫った合意なき離脱の危機が迫れば、合意なし回避に傾く議員もいるとみられる。こうした合意なし回避に向けた議会の動きを封じ込めるため、議会会期を政府権限で終了すること（prorogation）も一部で検討されている。11日付けのテレグラフ紙は、会期終了は「不適切（improper）で違憲（unconstitutional）だが、違法（unlawful）ではない」とのジェフリー・コックス法務長官の発言を伝えている。違憲と違法を同氏がどう使い分けているかは曖昧だが、記事ではこれを会期終了を禁止する法律はないが、非成文法（慣習法）に反する可能性があり、極めて議論の余地があることを示唆していると説明している。党首選の立候補者の中では、ラーブ氏が会期終了の可能性に言及し、批判を浴びている。ジョンソン氏はこれまで会期終了の可能性を否定しているが、13日付けのタイムズ紙は保守党関係者の発言として、合意なき離脱の確保に必要ならばジョンソン氏はその可能性を排除しないと伝えている。

（図表４）合意なき離脱を阻止する関連法案の審議時間を6/25に確保する動議の採決結果



出所：英議会資料より第一生命経済研究所が作成

ジョンソン首相の誕生や同氏による強硬離脱路線を阻止する方法として、保守党の後継党首に選出された同氏を議会で信任しないことや、首相就任後に内閣不信任案が提出される可能性がある。保守党は2017年の総選挙で下院の過半数を失い、北アイルランドの地域政党・民主統一党（ＤＵＰ）の閣外協力で議会運営を行っている（図表５）。北アイルランド国境管理のバックストップ見直しを求める後継党首でなければ、ＤＵＰから閣外協力継続を取り付けることはできない。その場合も両党の投票総数は野党勢を僅か５票しか上回らない。保守党の３議員が野党勢の内閣不信任案に同調すれば、ジョンソン氏の首相就任を阻止することが可能となる。内閣不信任案が可決し、14日以内に改めて信任されなければ、議会の解散・総選挙が行われる。過去の投票行動から、保守党には10名近くの残留支持者がいる。離党覚悟でジョンソン首相誕生阻止に動く保守党議員が３名以上現れるか、より差し迫った合意なき離脱の危機が高まった段階で不信任に動くのかは不透明だが、何れかの段階で議会の解散・総選挙が行われる可能性が高い。離脱・残留をかけた天下分け目の決選が待ち構えている。

（図表５）英議会構成と与野党の投票総数

	議員数	投票数	与党＋閣外協力	野党
保守党	313	312	312	
労働党	247	245		245
スコットランド人民党（SNP）	35	35		35
自由民主党（LibDem）	11	11		11
民主統一党（DUP）	10	10	10	
シン・フェイン	7	0		
チェンジＵＫ	5	5		5
プライド・カムリ	4	4		4
緑の党	1	1		1
無所属	16	16		16
議長	1	0		
合計	650	639	322	317

出所：英議会資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。